

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273900082		
法人名	(有)ハロービジネス		
事業所名	グループホームふじき野		
所在地	〒285-0928 千葉県印旛郡酒々井町ふじき野3-20-3		
自己評価作成日	令和2年9月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaignokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaignokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	令和4年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に楽しく歩む」を目標にし、入居者の方たちが自分の家として楽しく、落ち着ける雰囲気を職員が一丸となり作りだしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームのスローガンである「共に楽しく歩む」を職員間で共有して、利用者が日々楽しく、笑顔多く生活が送れるように努めています。長引くコロナ禍の影響で地域行事のほとんどが中止となり、これまでのように地域の方と直接的に関わることは難しいですが、天候や気候の良い日にはホーム周辺のお散歩やドライブにお連れして戸外に出かけられるように努めるほか、ホーム敷地内に畑を作り、利用者と一緒に野菜栽培や収穫も楽しめるように工夫しています。感染対策を講じたうえで、職員間で様々なアイデアを出し、明るく楽しくをモットーに、ホームのスローガンである「共に楽しく歩む」の実現につなげています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『共に楽しく歩む』という理念に基づき、利用者、職員、地域住民と一緒に歩むという思いで努力を重ねている。	「共に楽しく歩む」をホームの理念に掲げ、職員全体で共有して日々の支援の中で反映させています。特に「楽しむ」ことを全体で共有して、ホームでの生活が充実できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しているが、今年度もコロナの影響で自治会のイベントが中止になっており交流はない。	コロナ禍のため、地域行事のほとんどが中止となっているため直接的な交流はほとんどありませんでした。しかしながら地域とはトラブルなどなく良好な関係を築いており、コロナ禍収束後には直接的な交流も検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	要請に応じ認知症ケアについての話し合いの場に出向いている。今年度はコロナウイルスの影響で行ってない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は開催しておらず	今年度(令和3年度)は、コロナ禍ということもあり運営推進会議は定期的な開催とまでは至っていない状況であり、次年度以降の定期的な開催が望まれます。	定期的に運営推進会議を開催して参加者との意見交換などを通して貴重な意見を収集し、サービス向上につなげて行けることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場とは密接な関係を築いており、相談にのっていただいている。	町役場の担当者とは運営上の相談が必要な際は相談できる体制があり、協力関係を築き運営を進めています。また、新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの無料提供や交付金の支給などを通して協力を得ることができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて毎月身体拘束について話し合いを行っている。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、毎月のスタッフ会議の中で身体拘束廃止委員会を開催して不適切な対応が発生していないかなどについて全体で確認しています。現状ホーム内では身体拘束につながる事例はありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、虐待防止の徹底を図っている。また、今までそのような行為は一度もない。		

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町の包括支援で様々な勉強会が企画されているので参加させていただき知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を含む全てのことに十分な説明を心がけ理解していただけるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との信頼関係をうまく築けており、不満や意見がある場合には直接言ってきて下さる。自由に投函できる投書箱の設置もしている。第三者機関として包括支援センターに苦情受付窓口になっていただいている。	家族からの意見や要望については電話連絡などを通して個別に確認しています。運営に関する要望は特には出ていません。利用者からの意見や要望等は日常会話の中で確認しており、日常生活の中で反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヘルパー会議を毎月1度行っており、意見交換を行っている。管理者も現場に入り業務を行っているのでその都度意見があれば聞いている。	職員からの意見や要望等については管理者が日々現場に入る中で職員からの意向や要望等を確認しており、気軽に相談できる環境を築いています。また毎月の会議を通して職員との意見交換も行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の連携もとれており、入居者のことを第一に考え働いている。パートに対しては希望休の制限をもうけておらず好きな時に休みをとれる環境になっている。毎年同様今年度も職員全員に昇給、賞与支給を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は職員1名が認知症実践者研修にリモートで参加し、研修報告会を後日開催予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員1名が他事業所に月に3回程度応援にいらっており、職員間で情報共有をしている。		

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまでの状況をご家族から細かく聞き、ご本人にも自宅に行くなどしお話をし情報収集を行っている。ご本人、ご家族が納得して生活していただけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	説明や話し合いの場を設けて、どのようなケアを望まれているのか把握に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にお世話している思いはなく、ホームの理念に基づき『共に楽しく歩む』という関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族・職員が『共に楽しく歩む』という関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの友人が来訪できる環境を作っているが、コロナウィルスの影響で窓越しにて面会をお願いしている。	馴染みの人や場所との関係継続に向けて、コロナ禍により馴染みの場所への外出は難しいですが、友人の方との手紙のやり取りや来訪の際には玄関先での対面などを通して関係性が継続できるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士席を近くしたり、ご利用者、職員で散歩に行ったりレクを行ったりしている。		

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退居後も、異動先の病院や施設から問い合わせがあれば、情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴の把握と、初回面接時においてできるだけ本人・家族の意向を確認している。また入居後もコミュニケーションや毎日の様子を把握することで、ご本人の思いをくみ取れるよう職員間の連携をとっている。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の残存能力に合わせた日課表を作成し、情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期(月1回)・状態変化時・モニタリング(3か月に1回)会議を行い、介護計画書の見直しをしている。また随時家族に説明している。	ケアプランの作成にあたっては、担当者会議において管理者、ケアマネジャー、職員の意見、また家族や本人の意向など総合的に踏まえて作成しています。ケアプランについては3ヶ月毎モニタリングを行い目標の達成状況の確認及び評価を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の個人別介護記録があり、毎日介護スタッフにより詳細に記入されている。何か変化があった場合にはご家族に電話にて状況報告を行い意向の確認も行っている。また郵送で月1回家族宛に介護計画状況報告書の送付をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が一早く本人の変化に気づき、その日の体調や状態によって日課の変更をするなど柔軟なケアを心がけている。		

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの影響で、家族、入居者以外の交流はもてていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の要望を聞き、その意向に添って対応している。訪問診療(月1回)と訪問歯科が入っている。	ホームの協力医療機関による月一度の往診を通じて主治医とは日頃から連絡が取れる体制を築き、適切な医療を受けられる体制を築いています。訪問看護の週に一度の来訪や訪問歯科も定期的に訪れ、必要な医療を受けられる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護を利用しているので、色々相談ができる。また緊急時は主治医・訪問看護と連携をとる事ができ早期対応ができる。R4年1月より訪問看護ステーションの変更あり。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連携を取りながら、スムーズに対応できるようになっている。また入院後は出来るだけ多く面会に行き状態を聞く事で早い退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態が徐々に低下傾向になった時には、出来るだけ早く意向を確認できるようにしている。主治医、管理者、ご家族で話し合いの場を設け今後の方針を決めている。	看取りに対するホームの方針については、重要事項説明書内に「グループホームふじき野看取りケアの方針」を示し、利用契約時に家族に説明し、同意を受領しています。ホームでは、利用者本人や家族の要望を大切に終末期のケアまで主治医とも連携して対応していく方針としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	それぞれのマニュアルがあり、全ての職員が理解し対応を把握している。救急搬送時に救急隊の方より情報の伝達がスムーズにいくようにして下さいとの要望あり、情報がすぐわかるシートを作成した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	酒々井消防署の協力のもと、火災時の避難訓練や消火訓練を年に2回行っている。また社会福祉協議会が窓口となり立ち上げた「災害支援を守る会」の会員になっている。	社会福祉協議会が立ち上げた「災害支援を守る会」の会員となり地域の関係機関と連携が図れる体制を築いています。ホーム内でも令和3年度は7月に火災を想定した自主訓練を実施しています。米や調味料の備蓄や災害用にガスコンロなどもそろえています。	今後に向けては、作成義務となった事業継続計画(BCP)についても段階的に準備を進め作成し、災害発生後における運営方針の明確化を期待します。

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご自身が一番好きなお名前の呼ばれ方をお聞きし、呼び方やお声がけに配慮しながら職員が接している	利用者に対して適切な対応が図れるように、毎月の会議の中でも適宜行動や言動を振り返るほか、必要に応じてはチェックシートなども活用して適切な対応が図れているかについて確認する等、ホーム全体で高い意識を持ち取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でそれぞれが得意な事、優れている事をお手伝いしていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の状態に応じて、昼寝の時間を設けたり、本人の希望を取り入れながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に一度訪問理容に来ていただき、ご本人に希望を聞き髪を切ってもらっている。入居者1名は馴染みの美容室に月に1回程度行っており、送迎を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のお手伝いや、後片付けをできるよう、それぞれの適正に合わせて参加できるように心掛けている。	食事に関しては業者から食材が届くシステムを採用し、ホーム内で調理しています。利用者の調理への関りは感染防止のため止めていますが、食器拭きなどの作業には関わられるようにしています。食事レクを毎週取り入れ食事の楽しみにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タイヘイ食品に献立、食料の配達を依頼しており、個々の食事量を把握し提供している。水分量の摂取量を記載し把握している。月に数回施設内で献立を作成し、旬のものを召し上がっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回食後に口腔ケアを行っており、入居者全員が月に一度訪問歯科に口腔内を見てもらっている。口腔ケアのやり方、アドバイスは訪問歯科のDrに相談をしている。		

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の希望する時や、コミュニケーションがとれずらい方は排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っておりトイレでの排泄に心がけている。日中はオムツを着用している入居者は無く、ADLが重度の方には2人介助を行いトイレで排泄をしてもらえるように心掛けている。	利用者一人ひとりの排泄状況については記録システムに入力し、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導により本人のタイミングを大切にトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便となるように食事や水分摂取に気を使っている。自然排便が難しい方には医師と相談し下剤を調節しながら使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に合わせて入浴する日時を決めている。週に最低2度は入浴をしていただいている。	入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。入浴を拒否するケースでは無理強いせず声かけを工夫し本人のペースで入浴できるように工夫しています。入浴については利用者の体調やペースに合わせて週に2回入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のその日の体調を観察し、昼間でも昼寝や休息をとっていただくようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理には細心の注意を払っており、薬の変更や追加があった場合には容態の変化を観察し、細かく記録するよう徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力に応じて出来る事を役割分担しており、やってもらうことで自信につながっている。散歩を毎日行っており気分転換につなげている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に応じて散歩を行っており、ドライブに出かける事もある。庭に家庭菜園を作り、入居者が様子を見に行く事もある。	コロナ禍の影響もあり今年度は外出や外食行事は自粛しています。今年度はホーム内での生活がほとんどですが、気候や天候などを考慮したうえでホーム周辺の散歩やドライブにお連れしたり、ホーム敷地内での野菜栽培などを通して外に出られる環境としています。	



グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方は、ご自身で所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に電話したいという要望がある時には応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が季節に応じた掲示物を作ったり、装飾を変えたりして季節感をだしている。毎日清掃しており清潔に保てるよう努めている。オゾン除菌装置を導入した。	季節に合わせた装飾品を掲示するなど季節感が感じられるような工夫を取り入れています。日々の掃除の徹底や感染対策として手すりや床、リビングのテーブルなどもこまめに消毒しています。感染対策として換気も定期的を実施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和の間という和室があり、皆がくつろげる憩いの場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、それまで使っていた馴染みの家具や小物を持ってきていただき、そのひとらしい居室にして、個性豊かに生活できるよう支援している	居室内でも居心地良く過ごせるように、利用者の愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室内も清潔に保たれており、居心地良く過ごせる環境としています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で行動する時にも迷ったりすることがないように、トイレの場所を「トイレ」「→」など大きく表記したり、一人一人の居室にもそれぞれの表札をつけるなど工夫している		